Scholar of the Year candidate3

 　　 私がフィリピンの社会に貢献できること

 (MH-048)

 TRISTAN ELIJAH T. GARCIAT

神の創造したものには、すべて存在意義があります。私たちを取り巻く物にはそれぞれの目的があると信じます。でも皆がその真の意味を理解しているわけではないので、多くの人は

人生の目的や夢を探しながら生きています。私自身も同様に、人生の目的や将来何ができるか葛藤することがあります。学生だから、貢献できることも限られているとは思いますがそれが目的を持たない理由にはなりません。

社会への貢献の仕方には様々な方法があると思います。大きくても小さくてもそれなりにやる意義があります。例えば、食物や衣類の寄付、食料配給プログラム、地域奉仕、清掃プログラムのような小さなことからでも社会に貢献できます。小さなことが積み重なって

大きな違いがうまれるでしょう。私は自分の知識を活かして、年下の人たちに影響を与える

こと、必要な人に救いの手を差し伸べることが、自分なりの貢献の仕方だと思っています。

社会に責任を果たせる学生であることから始めたいです。

今はシニアハイスクールの最終学年で情報テクノロジーを専攻しているので、この勉強を究めることに集中しています。今、ITを学んでいくのが難しいと思うことがあるので、本当にこれを最終専攻にするか、他にシフトすべきかで岐路にたっています。どちらにしろ、一生懸命頑張って学業を修め、よりよい仕事に就いた時に、フィリピンに貢献したいと思います。

例えば（建設会社が多くの雇用を生みだすように）困っている人々がより豊かな未来を築けるようになれたらいいなあと思います。現在のフィリピンが直面しているのは、貧困問題でありいつまでたっても失業率が高いことです。貧困こそが我が国の犯罪を生む原因のひとつです。いつの日か、自分の手で貧困問題を減らしたいと思います。そして

私の学ぶ先進技術を用いれば、そうした理想を実現できると思います。ソーシャルメディアを使って、より多くの人々に周知し、取り組みに巻き込んでいくこともできます。

　私たちミレニアル世代だからこそ、ソーシャルメディアという手段を利用して、国が直面している問題に関心を向けてもらえると思います。貧困撲滅の資金集めイベントや慈善活動や行政も巻き込んだ取り組みにより、何らかの違いを生みだすことができると思います。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　Scholar of the Year candidate3

文化的な側面から見てみましょう、他国の文化の影響を受けた人々が多くなり、自国の文化、習慣、信念を忘れ去っている現状があります。IT専攻の学生としては、ウェブサイトを作ることに、学んだことを活かしたいです。そのサイトで、フィリピンの伝統や信条や文化、フィリピン人としてあるべき姿について皆に訴えかけます。同世代の共感だけでなく、次世代の人たちにも、自国の問題にフィリピン人としてどう向き合うのかという問題提起をしていきたいです。こうした声をあげることで、私たちより上の世代の人々と私たち若者世代が、影響し合い問題共有することによって、未来の人々は恩恵を受けられることになります。

今、不可能なことはありません。想いを言葉に載せることで、社会を変えることができます。

私はいつも、責任ある社会の一員として、また次世代の規範となるべくお互いに助け合うことの大切さや価値を次世代に伝えていきたいと思います。